

飼料用とうもろこし WCS の生産・利用に向けた取組支援

中部家畜保健衛生所

○大石理恵・稲吉洋裕

輸入飼料価格の高止まりを受け、県産飼料への転換が着目される中、特に酪農家からの需要が高い飼料用とうもろこし WCS（以下、WCS）について、令和 5 年度から生産・給与実証を行い、効果及び課題を確認したので報告する。

1 取組

1) 生産・利用体制の再整備

管内で、長年耕畜連携により飼料生産・利用に取り組む協議会（以下、協議会）を中心に、新たに地域農業再生協議会を加え、機能強化を図った。

2) 支援体制の構築

協議会による WCS の生産・利用は初めての取組であり、当所を中心として関係機関が連携し、耕種・畜産それぞれに支援可能な体制を構築した。

3) 支援内容

耕種農家に対しては生育調査を基にした生産技術支援、酪農家に対しては飼料設計を基にした利用技術支援を行い、協議会に対しては各種事業の活用について助言等を行った。

2 結果

1) 協議会の再整備等により、本取組に対する市や農協の理解が深まるとともに各分野からの技術支援等を通じて耕種農家が安心して取り組めるようになり、取組当初は 1.1ha だった作付面積は 2 年目には 4.1ha に拡大し、今年度は 5.8ha と約 5 倍になった。

2) ほ場条件や作業体系の影響を受け、目標収量 3t/10a に対し 1.6t (R5)、1.6~2.6t (R6)、TDN は 56.0~59.8%/DM（日本標準飼料成分 66.4%）と低かったが乳牛の嗜好性は良かった。なお、ほ場周辺に保管していたロールにカラスが穴を開け、品質への影響が懸念された。また、令和 7 年度には、ほ場内で獣害（アライグマ等）が発生した。

3) 耕種農家については、春播種は交付金収入もあり利益が出たが、二期作目は交付金対象外のためマイナスとなった。なお、10a 当たりの労働時間は 2.72 時間であり、水稻と比較すると省力化が期待できた。酪農家については、輸入粗飼料の一部を WCS に置き換えることで、輸入粗飼料給与時と比較し 1 日 1 頭当たりの飼料代が 128 円削減した。

3 まとめ

WCS は輸入飼料の代替として有用であり、酪農家の需要も高い。一方、耕種農家の労働時間削減が期待できるものの、収益性の向上には、排水性の高いほ場の選定や適期収穫ができるような作業体系の整備、獣害防止や品質確保のためロールを屋内保管するストックヤードの確保等が必要である。また、円滑な利用には、交付金等の活用による双方納得のできる価格設定や酪農家への運搬方法の調整が重要である。なお、他地域でも同様の取組が開始しており、管内の面積は、約 8.5ha (R5) から約 31ha (R7) と拡大した。引き続き耕種・畜産の双方が安心して生産・利用できるよう支援し、取組の定着化を図りたい。